

小 学 校

平成 2 4 年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

研究主題	1
------	---

### 中学年分科会

I 研究主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究内容	4
V 実践事例	6
VI 成果と課題	8

### 第5学年分科会

I 研究主題設定の理由	9
II 研究の仮説	10
III 研究構想図	10
IV 研究の内容	11
V 実践事例	13
VI 成果と課題	17

### 第6学年分科会

I 研究主題設定の理由	18
II 研究の仮説	18
III 研究構想図	19
IV 研究の内容	20
V 実践事例	22
VI 成果と課題	24

## 社会的事象を関連的に捉え、よりよい社会の在り方について考えを表現する学習指導の工夫

若年層の投票率の低下や働く意志をもたないニートの問題など我が国の社会にとって憂慮すべき事態がマスコミなどを通して様々に報道されている。

一方で、OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査から「思考力・判断力・表現力等の育成」、「自分への自信の欠如」等の課題が見られる。

このような状況を鑑み、「児童に日本人としての自覚をもってよりよい社会を形成する一員として成長してほしい」という願いを今年度の東京都教育研究員小学校社会部員では共有した。小学校学習指導要領解説 社会編（平成20年8月）においても次のように指摘されている。

我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。

（平成20年中央教育審議会答申 社会科改善の基本方針の一部から引用）

上記の内容からも、今、社会科において重要な課題の一つに、自ら社会参画していく資質・能力の育成があると言える。

しかし、小学校段階では、社会参画の資質・能力の育成を直接的または性急に求めていくべきではなく、各学年の発達の段階に基づいて育成していく必要がある。なぜならば、小学校社会科は、社会参画のためのあくまで「基盤づくり」をねらいとしているからである。このことを踏まえ、本部会では、児童が主体的に社会参画していく力を「確かな社会認識に基づき、よりよい社会の在り方について自分の考えを表現する力」と捉え、実践を進めていくこととした。

社会的事象とは、人間の社会的行為の軌跡であるため、目的と手段、原因と結果の関係が内在している。この社会的事象に内在する目的と手段、原因と結果の関係を解き明かしていくためには、地理的要因、政治的要因、経済的要因、文化的要因など多様な観点からアプローチしていくことが大切であると考えた。また、一つの社会的事象を立場の違い（消費者・生産者・販売者など）、多様な視点（地理的視点・政治的視点・経済的視点・歴史的視点など）から捉えさせることで、児童に確かな社会認識を育んでいけると考えた。

児童が確かな社会認識を育むことを通して、「よりよい社会の在り方」について、児童自ら考え、考えたことを表現するための指導の工夫を行っていくことにより、児童は自分なりに考え、表現することを通して、社会参画への基盤となる資質・能力を育成することができると考えた。

**地域の社会的事象を通して人と人とのつながりを捉え、地域社会に関わる一員として良好な生活の維持と向上について考えを表現する学習指導の工夫**

## I 研究主題設定の理由

社会科の第3学年及び第4学年の学習では、自分たちの住んでいる地域の学習を通して、社会生活についての理解を図り、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることをねらいとしている。具体的には、地域の社会的事象を具体的に調べて、地域社会の一員として考え、表現する力を育てていくこともねらいとしている。

本分科会では、児童の実態を調査した結果、社会的事象に対して意欲的に追究活動を開始しても、その意欲が最後まで続かず、調べたことを単にまとめるなど、社会的事象を自分のこととして捉えられない傾向がみられた。本分科会では、この結果から、教師が児童に社会的事象と自分との関わりを捉えさせるための指導が不十分であるため、児童が社会的事象についての理解を深めることができていないと考えた。

児童の学習意欲を継続させ、社会的事象を自分のこととして捉えさせるためには、児童に「自分は社会とつながりながら生活している」という実感的把握をさせることが大切である。そこで、社会を構成している人や物、出来事などのうちの特に「人」に注目し、地域社会に関わる人の思いや願い、立場などが自分とどのように関わり合っているかというつながりについて考え、調べる活動を取り入れることとした。人と人とのつながりは見えにくく、意識しづらいものであるが、学習（事実認識）を通して人と人とのつながりが存在することや、それらは社会を形成していく上で重要であることを理解させ、自分も地域社会の一員であることを実感させていきたい。そうすることで、児童は自分が社会とつながりながら生活していることを捉え、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会への関心・意欲をもち続けることができるであろう。

また、本分科会では、児童が地域社会に関わる一員として、良好な生活の維持と向上についての考えをもてるようにするためには、社会的事象に対する自分なりの考えを表現することが第一歩であると考えた。

そこで、社会的事象を通して捉えた人と人とのつながりを根拠にして、社会的事象に対する思いや願いを自分の立場から表現する場を学習過程に設定する。

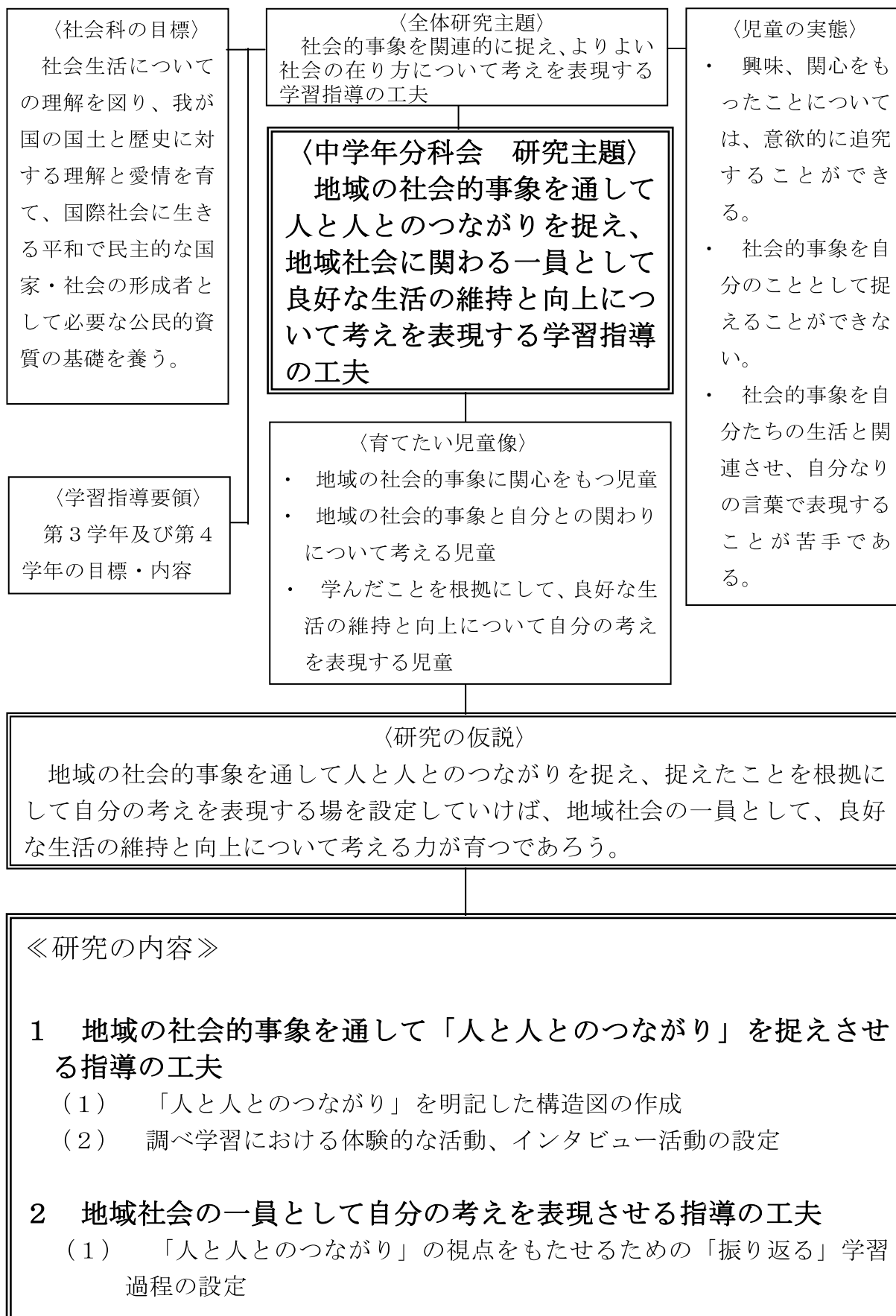
さらに、学習内容を基にして自分の考えを再構築することで、児童に地域社会の一員として住みよい暮らしを求めること、生活環境の維持と向上について考えること、地域の一員としての自覚、協力意識、郷土愛などの意識を高めることを目指していきたい。

## II 研究の仮説

地域の社会的事象を通して人と人とのつながりを捉え、捉えたことを根拠にして自分の考えを表現する場を設定していけば、地域社会の一員として、良好な生活の維持と向上について考える力が育つであろう。



### Ⅲ 研究構想図



#### IV 研究の内容

##### 1 地域の社会的事象を通して「人と人とのつながり」を捉えさせる指導の工夫

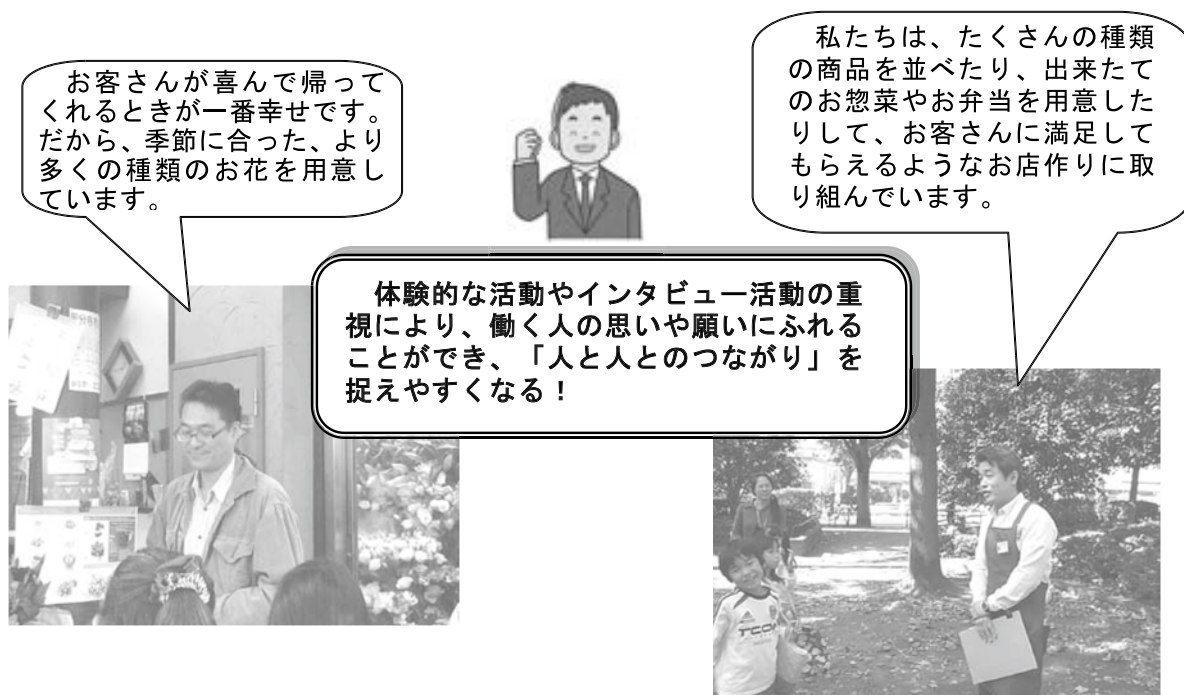
###### (1) 「人と人とのつながり」を明記した構造図の作成

単元における学習内容を整理し、社会的事象を捉えさせるために必要な事物・事象などを明記した構造図を基に教材開発することは、児童が単元の目標に到達するために必要であると考えられる。なぜならば、具体的な指導内容を教師が整理することにより、児童に学習を通して捉えさせたい知識や概念が明確になるからである。本研究では、その構造図に「人と人とのつながり」の項目を設定した（P. 6 参照）。

「人と人とのつながり」を構造図に明記することにより、教師は学習のどの場面において、誰と誰とが関わりをもちながら地域の社会的事象は形成されているのかについて具体的に整理することができる。また、教師がそのことを理解しながら指導を行うことで、「人と人とのつながり」を具体的に挙げながら学習を展開ことができ、児童に社会的事象をより深く理解させることにつながると考えた。さらに、「人と人とのつながり」を意識しながら指導を行うことで、つながりの中に自分自身も存在していることや、自分も地域社会の一員として生活していることを明確に捉えさせることができるであろうと考えた。

###### (2) 調べ学習における体験的な活動、インタビュー活動の設定

自分と地域の人たちとのつながりを捉えるためには、道具や製品を使ったり、作ったりする体験的な活動や、実際に地域の人に会い、人の話を聞いたり、疑問に感じたことを尋ねたりするインタビュー活動が有効である。なぜならば、児童は体験的な活動やインタビュー活動を行うことで、地域の人々の思いや願いについて、実感を伴って理解できるからである。これらの活動を通して、地域における社会的事象を具体的に理解することで、今まで意識していなかった社会的事象を、自分とつながりのあるものとして捉えやすくなると考えた。また、地域の人とのつながりを実感することで、児童はその後の調べる活動やまとめる活動に対して意欲をもち続けながら、学習を進めることができると考えた。



2 地域社会の一員として自分の考えを表現させる指導の工夫

(1) 「人と人とのつながり」の視点をもたせるための「振り返る」学習過程の設定

学習過程の中に、地域社会の一員として自分の考えを表現する「振り返る」学習過程(表)を設定する。

学習過程	学習内容
つかむ	単元を貫く学習問題を把握する。
調べる	学習問題を根拠に具体的な調べ学習を行う。
まとめる	学習問題に対しての考えをまとめ、知識や見方、考え方を獲得する。
<b>振り返る</b>	<b>地域社会の一員としての考えを表現する。</b>

獲得した知識や見方、考え方を  
根拠として自分の考えを表現する

表 「人と人とのつながり」の視点をもたせるための「振り返る」学習過程

児童は学習問題の解決を目指して学習を進めるが、単元の終末にもう一度、学んできた社会的事象と自分との関係を見つめ直すことにより、獲得した知識や見方、考え方を根拠にして考えたり、社会的事象と自分との関係を捉え直したりすることになる。そのことにより、児童がもともと持っている価値観を改めて見つめ直す機会にもなると考えた。

「振り返る」学習過程を単元の終末に設定したが、本来は、学習の振り返りや感想の中に地域社会の一員としての意見が出るのが望ましい。しかし、中学年の実態から考えると、その時間内に獲得した知識や見方、考え方を根拠にして地域社会における自分の立場を考えたり、社会的事象を捉え直した考えを表現したりすることは難しい。そこで、「振り返る」学習過程を意図的・計画的に設定することで、児童は既習内容を根拠にして、地域社会における自分の立場について考えたり、「調べる」や「まとめる」の学習過程で得た新しい見方や考え方を表現したりする力を身に付けることができると考えた。このような学習を繰り返すことで、児童は、社会的事象に対する自分の考えや、社会の現状を捉えた上で未来の社会への願いなども考えられるようになるのではないかと考えた。

また、「振り返る」学習過程では地域社会の一員として自分の考えを表現させることをねらいとしているので、それを表現させるための発問が必要となる。そのために、「人と人とのつながり」を捉えた上で、思いや願い、または工夫などに気付かせる発問を設定した。

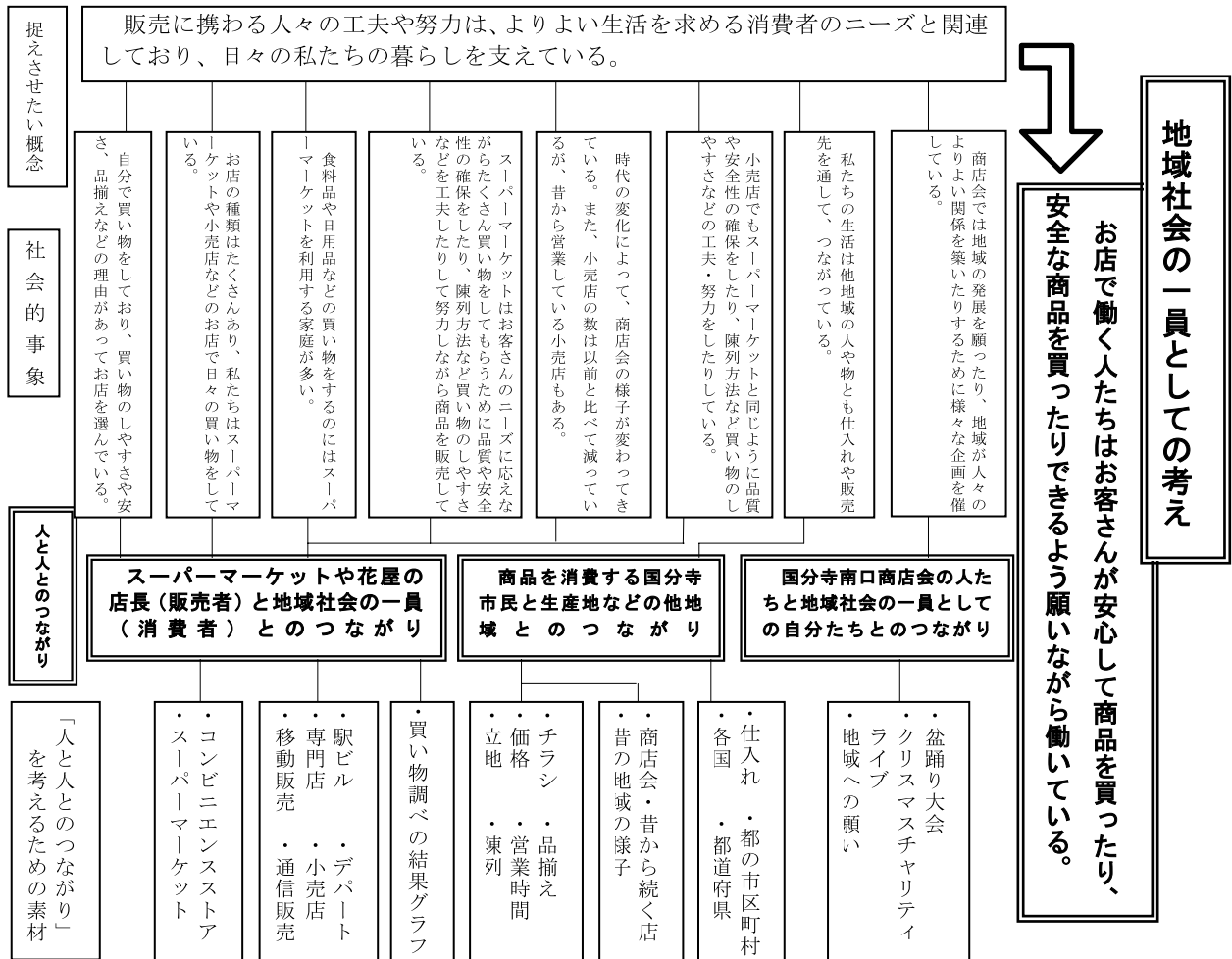
例) 「見直そう わたしたちの買い物」

「スーパーマーケットや花屋の店長はどのような願いをもって働いているだろうか」


この発問により、児童は学習してきた地域の社会的事象を振り返り、獲得した知識や見方、考え方を根拠にしてスーパーマーケットなどで働く人の願いや工夫と、自分たちの願いには関係があることに気付くことができるのではないかと考えた。それらのことに気付くことで、児童は自分が地域社会の一員として地域の社会的事象に深く関わりながら生活しているということを理解していく。さらに、そのことを理解することは、地域社会の一員としての自覚をもつことや、高学年に向けてより広い視野から考える力の育成へつながり、「良好な生活の維持と向上」についての考えをもつことにつながると考えた。

## V 実践事例 「見直そう わたしたちの買い物」 (14時間扱い)

### 1 「人と人とのつながり」を明記した構造図



### 2 実践記録

	○ 主な学習活動	● 人と人とのつながり	・ 児童の反応
つかむ (第1~4時)	<p>★ 体験的な活動・インタビュー活動</p> <p>○ 自分の買い物を振り返り、話し合う。</p> <p>★ 家庭での買い物調べの計画を立て、買い物調べを行う。</p> <p>○ 買い物調べの結果から、私たちはたくさんのお店を利用していることをまとめる。</p> <p>○ お店の種類をグルーピングし、販売の形態により分類されることを理解し、まとめる。</p> <p>○ 買い物調べの結果から、自分の家の買い物の仕方の特徴について話し合う。</p> <p>○ 多くの家庭では、スーパーマーケットを利用していることをグラフから読み取る。</p> <p>○ 学習問題を作り、学習問題の答えについて予想する。</p> <p>スーパーマーケットを多くの人たちが利用しているのはどのような工夫があるからだろうか。</p> <p>○ スーパーマーケット見学でどのようなことを調べたら学習問題を解決できるか考え、調査項目をまとめ、見学の計画を立てる。</p>	<p>● スーパーマーケットや花屋の店長(販売者)と地域社会の一員(消費者)とのつながり</p> <p>・ お菓子は近くのコンビニエンスストアでよく買う。</p> <p>・ お母さんは夕方にスーパーマーケットに買い物に行く。</p>	 <p>買い物について、生活経験を基にして話し合うことで、買い物経験を述べたり、お店を選ぶ理由を述べたりするなど活発な意見交換ができた。また、自分の買い物の仕方について振り返るだけでなく、友達の見物の仕方や様子について捉えられた。</p>

調べる  
(第5～12時)

★ スーパーマーケットの見学をして、どのような工夫や努力をしているか見学したり、インタビューしたりする。販売者の視点に立って考えるために分かったことは、①たくさんの品物を買ってもらうための工夫 ②買い物しやすいための工夫 ③働く人の様子や気持ち ④その他(お店についての知識など)の4項目に分類しながらメモする。

● スーパーマーケットや花屋の店長(販売者)と地域社会の一員(消費者)とのつながり

・ たくさんの人が働いていて、品物を並べたり、レジを打ったりするなど様々な仕事をしていて。



スーパーマーケットには、店長のように店をまとめる人、品物を並べる人、商品を注文する人、レジを打つ人などの仕事があり、それぞれ責任をもって仕事をしていること、お店の人たちはお客さんのニーズを考えながら仕事をしていることを見学やインタビューから理解することができた。活動を通して、お店の工夫や努力を見付ける視点をもつことができた。



★ 商品の仕入れ先を写真資料から読み取り、白地図にまとめる。

● 商品を消費する国分寺市民と生産地などの他地域とのつながり

○ 見学して分かったことについて、前述の4項目に分類しながらまとめる。

・ 北海道からはじゃがいも、新潟県からはお米などのように日本各地から国分寺市に食べ物が届けられている。  
・ 東京都に住んでいるのに、東京都産の食べ物があまりなく、他の道府県で作られた食べ物がたくさんあった。

○ スーパーマーケットではなく、近所の小売店を利用し、買い物する家庭もあることをグラフから読み取る。



○ 調べていきたいことを話し合い、新しい学習問題を作る。

近所の小売店にはどのようなお店のよさがあるのだろうか。



値札やポップの写真資料の産地を読み取ったり、家庭での産地調べの結果を白地図にまとめたことなどで様々な地域から国分寺市に商品が届けられていることを捉えることができた。また、東京近郊から運ばれるものは特に新鮮さが求められるものが多いことなど流通の仕方について考える児童もおり、運ぶ人とのつながりや商品輸送の仕組みを考える場ともなった。

○ 近所の小売店(花屋)の販売の工夫や努力についてスーパーマーケットでの見学を通して分かったことを根拠に予想を立てる。

★ 花屋の見学をしてどのような工夫や努力をしているのかを調べたり、インタビューしたりする。

● スーパーマーケットや花屋の店長(販売者)と地域社会の一員(消費者)とのつながり

・ 花屋でも、商品を目の高さに置いたり、鮮度を保つために冷蔵庫に入れたりするなどお客さんのことを考えながら仕事をしていて。



調べる観点について十分理解し、適切な視点を持ち、見学・インタビューをすることができた。スーパーマーケットと比較・関連させて花屋での陳列方法や鮮度を保つための工夫や努力などについて考えることができた。



★ 商店会では地域の人たちが安全に楽しく暮らすことができるようにするために様々な取り組みをしていることを知り、商店会と地域や自分たちとのつながりについて考える。

● 国分寺南口商店会の人たちと地域社会の一員としての自分たちとのつながり

・ 商店会の人たちは、町の人が安全に、楽しく暮らすことができるように街灯を整備したり、お祭りを企画したりするなどの活動をしていてすごい。



商店会の人たちが行っている地域の人たちが安全に楽しく暮らすことができるような取り組みを理解することで、児童自身も地域に住む一員であることを意識することができた。また、よりよい地域にしたいと願う人たちがいることを知ることで、地域に対する愛着をさらにもつことができたのではないかと考える。



まとめる  
(第13時)

○ 調べてきたことを根拠にして、学習問題についての考えをまとめる。

○ 販売者の工夫や努力が私たちの暮らしを支えていることについて、自分なりの考えをもち、意見交流をする。

振り返る  
(第14時)

◎ スーパーマーケットなどで働く人の思いなどについて自分なりの考えをまとめる。

スーパーマーケットや花屋の店長は、どのような願いをもって働いているだろうか。

◎ 良好な生活についての維持や向上について考える場

・ 店長さんたちは、お客さんに安心して、より良いものをより安く買ってもらおうとしているんだね。



学習してきたことを根拠にして働く人の願いを考えることができた。そのことにより、地域社会の一員としての自覚をもたせることができ、「良好な生活の維持と向上」についても考えることができた。



## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

- 「人と人とのつながり」を明記した構造図を作成することで、児童に消費者はもとより販売者などの立場や視点から考えさせながら社会的事象を捉えさせることができた。

- ・ たくさんの人が働いていて、品物を並べたり、レジを打ったりするなど様々な仕事をしていた。
- ・ 花屋でも、商品を目の高さに置いたり、鮮度を保つために冷蔵庫に入れたりする（品質のよいものを提供したい）などお客さんのことを考えながら仕事をしていた。
- ・ 商店会の人たちは、町の人が安全に、楽しく暮らすことができるように街灯を整備したり、お祭りを企画したりするなどの活動をしていてすごい。 など

また、構造図の作成により、教師が社会的事象における、「スーパーマーケットや花屋の店長（販売者）と地域社会の一員としてのつながり」などの「人と人とのつながり」について、より正確に捉えることができた。そして、児童はスーパーマーケットと花屋という販売形態の異なる販売店の工夫について共通点や相違点を見付け、関連させながら地域の社会的事象についての理解を深めることができた。

- 調べ学習において体験的な活動やインタビュー活動を設定したことで、「買い物に行ったときに、授業でインタビューをしたお店で働く人へ挨拶をしたり、自分から話しかけたりするようになった。」「お店で働く人の立場から、商品をたくさん売るための工夫を捉えたことで、買い物の際には、商品表示を意識的に見るようになった。」などの変容が見られた。これは、「人と人とのつながり」を通して、児童が社会的事象と自分との関わりを、身近に感じることができたためと考えられる。
- 「振り返る」学習過程を設定することで、学習してきたことを根拠にししながら自分の考えを整理し、良好な生活の維持と向上について適切に表現する児童が見られた。

- ・ 品物を買うときには、お店の人がどのような工夫をしているのか考えながら買い物をしたい。
- ・ おいしく食べてもらいたいという思いが詰まっているから、買った物は残さないように食べたい。 など

児童にこのような発言や記述が見られたのは、児童が自分も地域社会の一員として生活していることや、働く人の思いや願い、工夫などを根拠にして自分なりの考えを表現することができたからであると考えられる。

### 2 研究の課題

- ◇ 「振り返る」学習過程における児童の考えの中には、「お店の人のためにもっとたくさんの買い物をしたい。」というような記述が見られた。この記述から、十分に「人と人とのつながり」を捉えきれていないと考えることができる。自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育成するためには、人と人とのつながりは今後も重要な視点となるので、さらに「人と人とのつながり」を意識させ、学習活動を行っていく必要がある。
- ◇ 学習してきたことを根拠にししながら、児童自らが「人と人とのつながり」といった点から考えられるような「まとめる」学習過程と「振り返る」学習過程との接続に課題がある。課題を解決するためには、資料の工夫や精選、「振り返る」学習過程での中心発問に対する意見交流の場の設定、地域の人々に対しての考えを表現する場の設定などの教材開発や指導の工夫が必要である。



**産業の様子を広い視野から関連的に捉え、公正に判断し、表現する学習指導の工夫**

**I 研究主題設定の理由**

本分科会で行った実態調査（5年生128人）や日常の学習の様子から、児童は「米作りが有名な県はどこですか。」や「〇〇県で作っている米のブランドは何ですか。」などの知識を求める問いには答えられるが、「〇〇県で米作りが盛んなのは、なぜですか。」という事象間の関係について思考することが求められる問いに対しては、苦手意識をもつ児童が多いことが分かった。また、「これからの日本の農業はどのようにしていけばよいのでしょうか。」という問いのように、学習した内容をもとに自分の考えを表現することに課題のある児童が多いことも分かった。

これらのことから、社会的事象を原因と結果の関係で捉え、学習した内容を活用して公正に判断することに課題があることが明らかになった。この課題を解決するためには、社会的事象を関連的に捉えさせたり、学習した内容をもとに、これからの社会の在り方について考えさせたりする学習を展開する必要があると考え、本分科会では研究主題を「産業の様子を広い視野から関連的に捉え、公正に判断し、表現する学習指導の工夫」と設定した。

本分科会では、「広い視野」を多面的と多角的の二つに分類した。多面的とは、消費者・生産者・販売者といった社会的事象を様々な《立場》から捉えることであり、多角的とは、社会的事象を自然・社会・経済・政治・歴史・文化といった様々な《視点》から捉えることであると考えた。「関連的に」とは、例えば産業の流過程においては、登場する生産者・販売者・消費者等の行為を関係付けて捉えることである。そうすることによって、「〇〇県では、広くて平らな土地の近くに大きな川があるという自然環境を生かして、昔から稲作が行われてきた。また、高速道路がつながったので、全国に素早くお米を送ることが可能になった。〇〇県で米作りを行っている人々は、こうした条件を活用しながら、消費者のニーズに応える努力を行っているので、〇〇県のお米が有名になったのだと思う。」のように、自然条件や歴史的背景、生産者・販売者・流通などを関連付けて、捉えることのできる児童の育成を図っていききたい。

そのために本分科会では、産業の仕組みや私たちの生活との関わりを理解する上で不可欠な、経済的な視点に重点を置いた教材開発と、様々な立場から関連的に捉えさせる指導の工夫が重要であると考えた。具体的には「需要と供給」や「コスト（費用）」、「付加価値」「流通」などの視点に重点を置いた教材開発及び、「消費者」「生産者」「販売者」「海外とのつながり」などのいくつかの立場の人々を登場させ、社会的事象を関連的に捉える指導の工夫を行うこととした。このような手立てを講ずることにより、児童が社会的事象を広い視野から関連的に捉えることができると考えている。

また、「公正に判断し、表現する」とは、広い視野から関連的に捉えた内容を活用し、よりよい社会の在り方について考えたことを表現することである。本分科会では、この能力を育成するためには、そのような思考や判断を促す問いが必要だと考えた。具体的には、「これから日本は、どのようにしていけばよいと考えますか。」や「よりよい社会を実現するために、あ

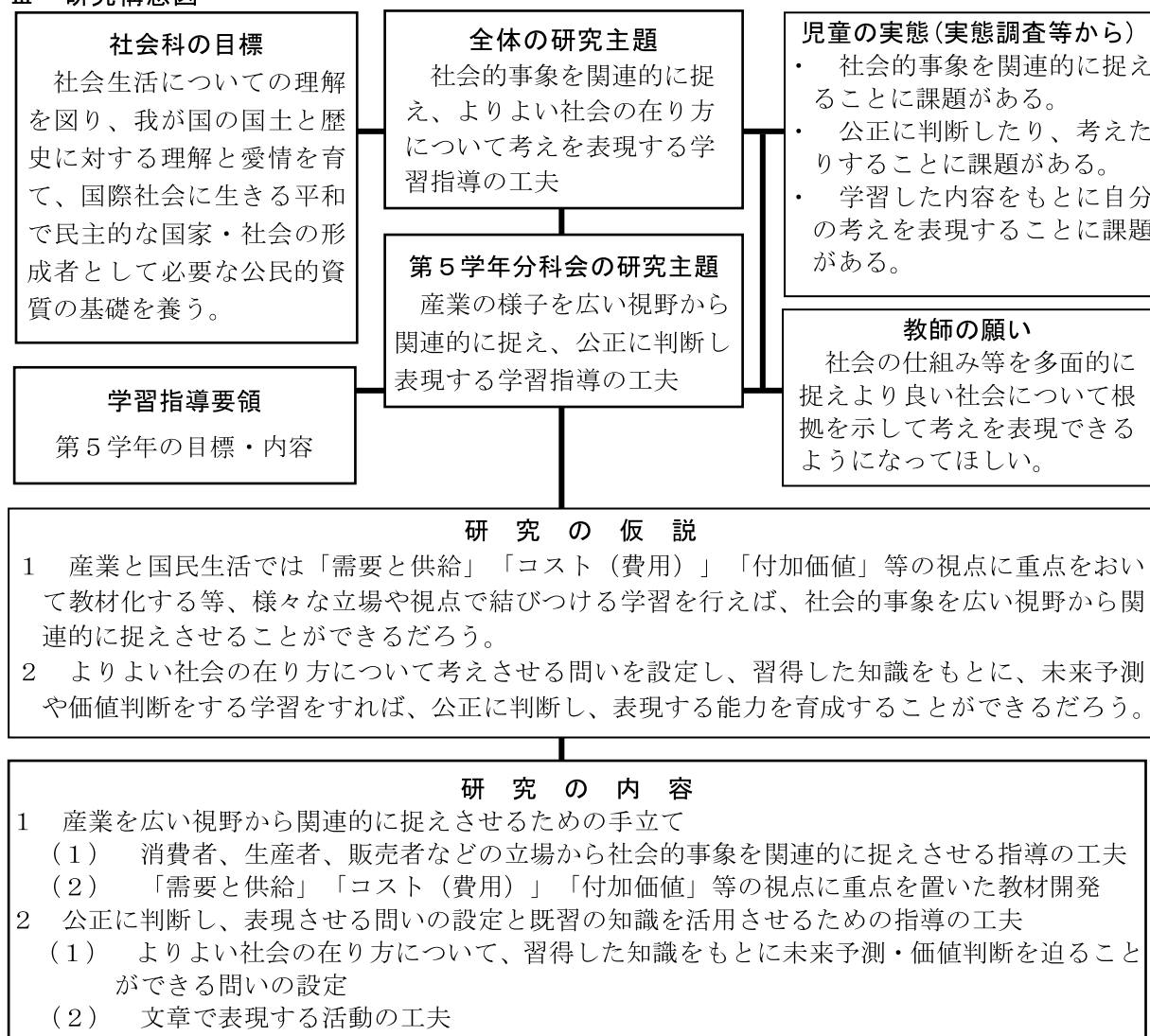
なたはどの意見に賛成ですか。またそれはどうしてですか。」など、未来予測や価値判断を迫る問いを設定することとした。さらに、それらの問いに対し、自分の意見を整理して発表したり、相手の意見を聞いて議論したりするなど、児童が表現する場を設定することも重要と考えている。

本分科会では、このように習得した知識をもとに、よりよい社会の在り方について、思考や判断を迫る問いと表現する場の設定を行うことで、児童は公正に判断し、表現することができるようになるのではないだろうかと考え、研究実践を進めていくこととした。

## II 研究の仮説

- 1 産業と国民生活では「需要と供給」「コスト（費用）」「付加価値」等の視点に重点をおいて教材化する等、様々な立場や視点で結びつける学習を行えば、社会的事象を広い視野から関連的に捉えさせることができるだろう。
- 2 よりよい社会の在り方について考えさせる問いを設定し、習得した知識をもとに、未来予測や価値判断を迫る学習を行えば、公正に判断し、表現する能力を育成することができるだろう。

## III 研究構想図





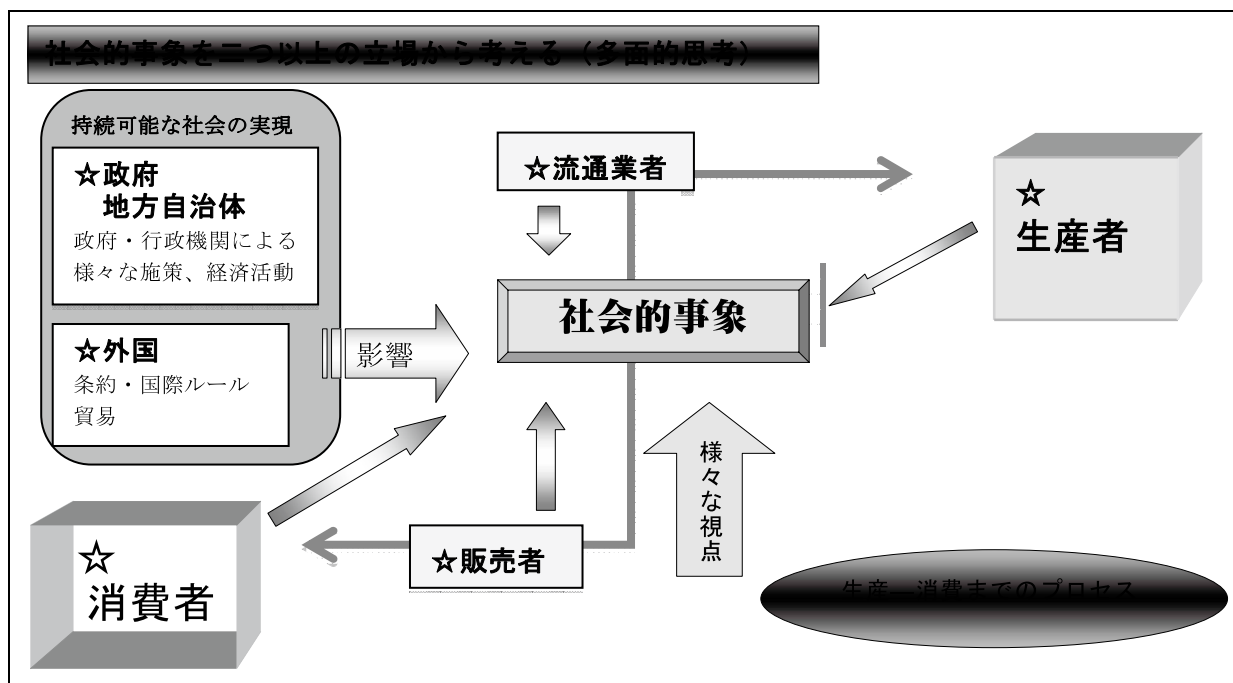
#### IV 研究の内容

##### 1 産業を広い視野から関連的に捉えさせるための手立て

よりよい社会の在り方について考えさせるためには、社会的事象を広い視野から捉えさせる必要があると考える。したがって様々な立場や視点から社会的事象を捉えさせる教材の開発や指導法の工夫を行い、児童の考えや理解を深めていくこととした。具体的には次の通りである。

##### (1) 消費者、生産者、販売者などの立場から社会的事象を関連的に捉えさせる指導の工夫

各小单元において、いくつかの立場の人物を登場させ、それぞれが「どのような取り組みをしているのか。」「なぜそのような取り組みをしているのか。」などの原因と結果の関係を捉えさせることで、社会的事象は複数の要因によって構成されていることを理解させるようにした。

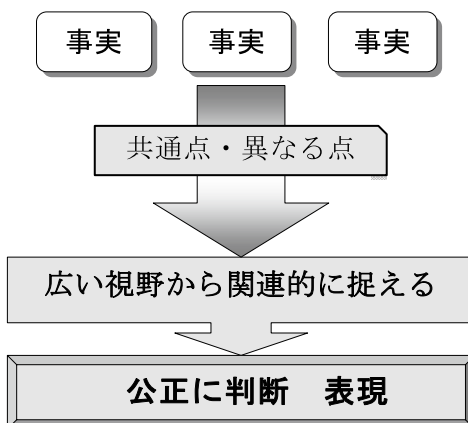


##### 【授業での具体例】

わたしたちの生活と食料生産「日本の水産業」

- ・ 国内産のマグロと外国産のマグロ（貿易）
- ・ 消費者のニーズ（安心・安全・鮮度）
- ・ 漁師（生産者）の取り組み  
（付加価値・ブランド化）
- ・ 政府、自治体等の取り組み  
[政策、持続可能な水産業の実現を目指す]

##### 二つ以上の立場から事実を捉える



(2) 「需要と供給」「コスト（費用）」「付加価値」等の視点に重点を置いた教材の開発

各小單元において、教材の開発を行った。具体的には、水産業の授業では、「同じマグロなのに値段が違うのはなぜか。」などの視点を取り入れて教材の開発を行った。なぜならば、価格や費用を学習の中で扱うことによって、我が国の産業を消費者と生産者の立場からだけでなく、販売者、政府、地方自治体、外国といった立場を通して捉えさせることができると考えたためである。このように、「需要と供給」「コスト（費用）」「付加価値」等の視点から、社会的事象を多面的に捉えさせたいと考えている。

2 公正に判断し、表現させる問いの設定と既習の知識を活用させるための指導の工夫

持続可能な社会を実現するための公正な判断力をもてるようになるためには、習得した知識や様々な社会的事象に基づく立場や視点に関連付けて、価値判断し、自分の考えを表現できるようにすることが必要と考え、次の指導の工夫を行った。

(1) よりよい社会の在り方について、習得した知識をもとに未来予測・価値判断を迫ることができる問いの設定

各小單元において、社会的事象を広い視野から捉えさせた後に、学習したことを基にして、未来予測や価値判断を迫る問いを単元終盤に設定した。

例

☆水産業の学習の場合

「たくさんの水産物を輸入することによって、『よい影響』と『よくない影響』の両方が様々な立場の人にもたらされます。このような状況を踏まえ、あなたはこれからの日本の水産業について、次のどの意見に賛成しますか。」


問いの設定に当たっては、消費者・生産者・販売者や海外の人々などそれぞれの立場における正と負の影響、持続可能な社会という観点を取り入れること及び、既習の学習内容を活用して考えさせるという条件を設定した。そうすることで、児童が社会的事象を関連的に捉え、学んだことを次の学習に活用していくことを通して、持続可能な社会を形成していこうとする態度などの公民的資質の基礎を身に付けることをねらった。

(2) 文章で表現する活動の工夫

毎時間、授業で分かったことや気付いたことを短文でまとめさせることに取り組んだ。この積み重ねが確実な事実認識につながり、その事実認識をもとに公正な判断を行わせたいと考えている。そして、その考えを表現する場を設定し、おさえた事実を基に自分の考えを表現したり、友達の考えを共有したりすることを通して、よりよい社会の在り方について自分の考えを表現する児童の育成をねらった。

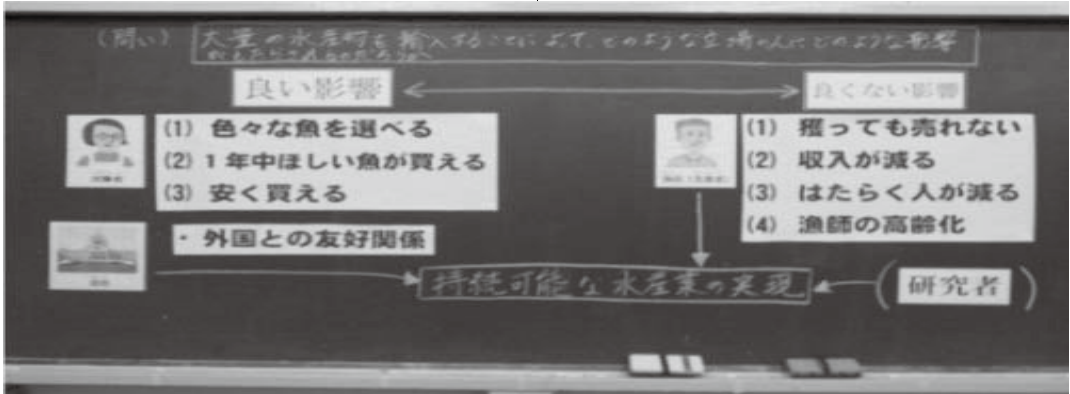
V 実践事例

※事象間の因果関係を求める問い： 下線、未来予測や価値判断を迫る問い：波線

次	時	教師の指示・発問 (●) 児童の反応 (○)	習得させたい知識 (○) 立場 (□) 獲得させたい概念【 】
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この表は、有名回転寿司店3社の「人気寿司ネタランキング」です。1位には全て同じネタがランクインしていました。1位は何でしょう。</li> <li>●日本人は、1年間にどれぐらいの量のマグロを消費しているのだろうか。</li> <li>●「スーパー○○」で売っていた2種類のマグロです。どうして、同じマグロ(ほぼ同じ量)なのに、値段が違うのだろうか。</li> <li>・獲れた場所(産地)が違うからじゃないかな。</li> <li>・上パチまぐろや生キハダまぐろのようにマグロの種類が違うからじゃないかな。</li> <li>・「中トロ」や「赤身」等、部位が違うからじゃないかな等。</li> <li>●次時からどの予想が正しいのか調べていきましょう。</li> </ul>	<p>○3社とも第1位はマグロである。</p> <p>【問い】</p> <p>なぜ、同じ魚(マグロ)でほぼ同じ量なのに、値段が違うのだろうか。</p>  <p style="text-align: right;">* <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消費者</span></p>
	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マグロの値段は、種類や部位の違いによって変わるのだろうか。</li> <li>●マグロの種類の違いと値段は関係があるのだろうか。主なマグロの種類(特徴を含む)とその値段(平均取引価格[1kg/円])を調べてみよう。</li> <li>●部位の違いと値段は関係があるのだろうか。一般的に食べられているマグロの部位と値段(100g/円)を調べてみよう。</li> <li>●マグロの値段は、種類や部位の違いによって変わると言えるのか。</li> <li>・マグロの値段は、種類や部位の違いによって変わる。</li> <li>●なぜ、種類ではクロマグロが、部位では大トロが高い値段で売られているのだろうか。</li> <li>・他のマグロと比べて獲れる量が少ないからではないか。</li> <li>・「買いたい」という人が多いからじゃないかな。</li> <li>●学習したことをまとめよう。</li> </ul>	<p>○クロマグロ…3493円、インドマグロ…2327円、メバチマグロ…974円、キハダマグロ…888円、ビンナガマグロ…420円。</p> <p>○大トロ…4000円、中トロ…2300円、赤身…1500円、かまトロ…3150円、脳天(頭肉)…630円、ほほ肉…473円(平成24年10月19日現在)。</p> <p>○最も値段の高い種類はクロマグロ(本マグロ)で、部位は大トロである。</p> <p>○我が国の魚種別マグロ類漁獲量(2010年)によると、クロマグロの漁獲量は、0.4万t/17.9万tと最も少ない。</p> <p>○大トロは、江戸時代には“猫またぎ”と呼ばれ、捨てられていたが、食生活の洋風化や冷凍技術の進化のおかげで美味しく食べられるようになり、需要が高まった。</p>
			<p>○マグロの値段は、種類や部位の違いによって変わる。種類ではクロマグロが、部位では大トロが高い値段で売られているのは、獲れる量が少ないのに、欲しいという人が多いからである。</p> <p style="text-align: center;">【需要と供給(消費者ニーズ)】</p>
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マグロの値段は、獲れた場所(産地)の違いによって変わるのだろうか。</li> <li>●最も高値で取引されているクロマグロは、どこで(国内)、どのような(漁獲)方法で獲られているのだろうか。資料をもとに調べよう。</li> <li>●過去、築地市場では2011年には戸井産クロマグロが3249万円(342kg)で、翌年2012年には大間産クロマグロが5694万円(269kg)の値段がつけられたが、どうして大間産や戸井産のクロマグロにこれほどの高い値段がつけられたのだろう。</li> <li>・大間産の場合は、手間のかかる一本釣りで獲</li> </ul>	<p>○日本国内では、戸井(北海道)、大間(青森)、塩釜(宮城)、勝浦(和歌山)、土佐清水(高知)、境(鳥取)、油津(宮崎)等が主な水揚げ港(産地)として有名である。マグロを獲る主な方法には、延縄漁法、巻き網漁法、一本釣り漁法の三つがある。</p> <p>○築地市場での過去最高の落札価格は、大間産クロマグロ…5694万円(269kg)(2012年1月5日)戸井産クロマグロ…3249万円(342kg)(2011年1月5日)である。共に築地市場の初競りにて</p>	

	<p>っているからじゃないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ同じ場所（黒潮と対馬海流が交わる位置）でとっているから美味しいマグロがとれるからじゃないかな。</li> <li>・「美味しい」と評判だからではないか。</li> </ul> <p>●なぜ、築地市場で大間産（青森）クロマグロに高い値段がつけられたのだろうか。</p> <p>●大間（青森）で行われている一本釣りの様子（DVD）を見て、分かったこと書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなクロマグロを苦労して一本釣りしているようだが、どうやらそれが高い値段がつけられている理由ではなさそう。</li> </ul> <p>●マグロ卸売り業者（黒門マグロ卸専門店）の丸山さんの話を読んで、大間産クロマグロに高い値段が付けられる理由をまとめよう。</p> <p>●なぜ、築地市場で戸井産（北海道）クロマグロに高い値段がつけられたのだろうか。</p> <p>●資料を読んで、大間産クロマグロの場合（高い値段が付けられる理由）と比べながら、まとめよう。</p> <p>●なぜ、大間（青森）や戸井（北海道）で獲れたクロマグロをわざわざ築地市場（東京）まで運ぶのだろうか。</p> <p>●学習したことをまとめよう。</p>	<div data-bbox="906 203 1362 506" data-label="Image"> </div> <p>○築地市場で大間産（青森）クロマグロに高い値段がつけられているのは、対馬海流と黒潮が交わる津軽海峡で青魚（イワシやサンマ）を主食とした「脂のりがよく美味しい」マグロが獲れると評判だからである。さらに、その評判と「大間産マグロ＝一本釣り」というイメージと一緒にメディアを通じて伝えられ、需要が高まっていることも挙げられる。</p> <p>○築地市場で戸井産（北海道）クロマグロに高い値段がつけられているのは、対馬海流と黒潮が交わる津軽海峡でイカを主食とした「さっぱりとした美味しい赤身のマグロ」が獲れると評判だからからである。また、戸井産の場合、マグロ漁獲後の迅速な血抜き処理により、鮮度がよく変色しにくい良質のマグロを出荷していることも挙げられる。さらに、300kg以上の大きなマグロが水揚げされることも大きな要因である。</p> <p>○築地市場（東京）まで運ぶのは、築地市場のある東京は国内の流通拠点であり、人口や飲食店が多く、大消費地なので地元で卸すよりも高値で取引される可能性が高いからである。</p> <div data-bbox="319 1256 1390 1406" data-label="Text" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○マグロを獲る主な方法には、延縄漁法、巻き網漁法、一本釣り漁法の3つがある。マグロの値段は、獲れた場所（産地）によって変わる。築地市場で大間産（青森）や戸井産（北海道）のクロマグロに高い値段がつけられているのは、評判が良く（型・鮮度・味）、知名度（ブランド化）や需要（消費者ニーズ）が高いからである。  <b>【付加価値（ブランド化・鮮度）、需要と供給（消費者ニーズ）、コスト（費用）】</b></p> </div> <p style="text-align: right;">* <u>生産者</u>、<u>販売者</u>、<u>消費者</u></p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第二次</p> <p style="text-align: center;">7 8</p>	<p>●“日本の台所”と呼ばれている築地市場には、マグロの他にどこから（どの国）どのようなものが、どれぐらい運ばれてきているのだろうか。資料をもとに調べよう。</p> <p>●我が国の水産物総輸入量の272万tというのは、世界で何位なのだろうか。</p> <p>●なぜ、日本は大量の水産物を外国から輸入しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人はたくさんの魚を食べるので、日本の漁獲量だけでは足りないからじゃないかな。</li> <li>・日本の周りではあまり魚が獲れないからじゃないかな。</li> </ul> <p>●日本人は、1年間にどれぐらいの水産物を食べているのだろうか。また、それは世界で何位ぐらいなのだろうか。</p> <p>●日本の場合、生産量（漁獲量）に対して消費量は足りているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の場合、生産量（漁獲量）に対して消費</li> </ul>	<p>○築地市場には、チリ・ノルウェー・台湾・アメリカ・韓国・中国・ロシア・ベトナム等、世界各国から、主にサケ・マス・マグロ・カツオ・エビ等を輸入している。平成22年度の水産物総輸入量は272万t、輸入額は1兆3709億円であった。</p> <p>○水産物総輸入量は272万tというのは、世界で第1位である。</p> <p>○日本人は、1年間に平均で一人あたり56.6kgの水産物を食べている。これは、世界第6位の消費量である。</p>

	<p>量は足りていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “200 海里水域” とは何か。 “200 海里水域” の取り決めによって日本は、どのような影響を受けたのだろうか。</li> <li>▪ この取り決めによって、日本は遠くで漁を行う遠洋漁業と沖合漁業の漁獲量が減少したんじゃないかな。</li> <li>● 生産量に対する消費量の差や “200 海里水域” の他に日本が外国から大量の水産物の輸入している理由はあるのだろうか。</li> <li>▪ 昔に比べ、日本の周りで獲れる魚の数も減少したんじゃないかな。</li> <li>● 学習したことをまとめよう。</li> </ul>	<p>○ “200 海里水域” とは、1977 年に採択された国連海洋法条約で、沿岸から 200 海里（約 370km）の範囲では自由に漁を行っても良いが、その範囲を越えて勝手に漁をしてはいけないというものである。</p>
	<p>○日本が大量の水産物を輸入しているのは、日本は世界第 6 位の水産物消費国であり、現在の日本の漁獲量では足りないからである。また、1977 年に採択された国連海洋法条約（いわゆる 200 海里規制）によって、漁獲範囲が決められたことにより遠洋漁業と沖合漁業の漁獲量が減少したからである。さらに、日本周辺の魚の数や種類が減少したこと等も指摘されている。</p> <p style="text-align: right;">【貿易、経済水域、コスト（費用）】</p>	<p style="text-align: right;">* 生産者、消費者、政府</p>
<p>9 10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大量の水産物を外国から輸入することによって、どのような立場の人にどのような影響がもたらされているのだろうか。</li> <li>● 大量の水産物を輸入することによって、どのような立場の人に、どのような「良い影響」がもたらされているのだろうか。資料をもとに調べよう。</li> <li>● どうして、外国産は遠くから運んでいるのに、国産より安い値段で売ることができるのだろうか。</li> <li>▪ 人件費が安いからじゃないかな。</li> <li>▪ 日本に比べ、魚がたくさん獲れるからじゃないかな。</li> <li>● 大量の水産物を輸入することによって、どのような立場の人に、どのような「良くない影響」がもたらされているのだろうか。資料をもとに調べよう。</li> <li>● 学習したことをまとめよう。</li> </ul> <p>○大量の水産物を外国から輸入することによって、政府、消費者、生産者等に正負の両方の影響がもたらされている。</p> <p style="text-align: right;">【貿易、コスト（費用）】</p>	<p>○大量の水産物を輸入することによって消費者には、安定供給・安価・選択肢の拡大等が、政府には友好関係の構築等の正の影響がもたらされている。</p> <p>○国産より外国産の水産物の方が安いのは、人件費等の生産コストが安く、大量の水産物が獲れること（養殖も含む）。さらに、輸送技術や冷凍技術の発達により、遠方からでも鮮度を保ったまま運ぶことができるようになったからである。</p> <p>○大量の水産物を輸入することによって生産者には、獲っても売れない状況やそれに伴う収入減少・離職及び就業者人口の減少、高齢化等の負の影響がもたらされている。</p>
<p>11 12 13</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大量の水産物を輸入することによってもたらされている状態が（消費者や政府にとってはよいが、日本の生産者にとってはよくない）が今後さらに増大し、長期的に続くと、どんなことが予測されますか。</li> </ul>	<p>○生産者に立場では、漁師を志す人が減り、我が国の漁獲量はさらに減少する恐れがある。その結果、我が国の水産業は更に輸入に依存することになる。</p>

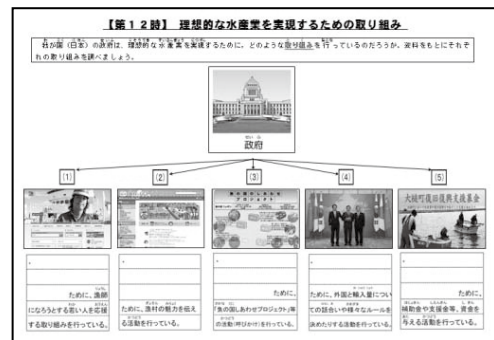
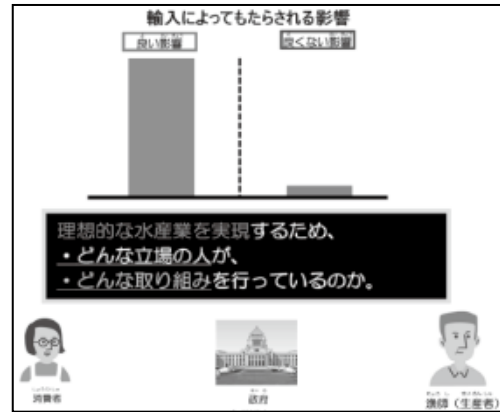


\* 生産者、消費者、政府



- 日本の漁師の就業者人口は、今後も減り続け、その結果、私たちは将来、国産の水産物を食べられなくなるかもしれない。
- 今よりも水産物の輸入量が増える。
- 消費者（政府を含む）にとっても日本の生産者にとっても望ましい状態とはどのような状態だろうか。また、このような状態を保つために、どのような立場の人が、どのような取組みを行っているのだろうか。
- 消費者にもたらされている「良い影響（安く購入できることや商品の選択肢の幅）」が保たれつつ、日本の生産者にもたらされている「良くない影響（魚を獲っても売れない、収入が減る等）」が適度に解消される状態かな。
- 持続可能な水産業を実現するために、日本の生産者（漁師）や研究者はどのような取組みを行っているのだろうか。資料をもとに調べよう。
- 日本の生産者（漁師）は、持続可能な水産業を実現するために、魚がこれ以上減らないための工夫（漁獲時期や量、獲る魚の大きさ等を決めて漁を行っている）や海を豊かにするための取組み（植樹）をしたり、消費者に高価でも購入してもらえるような質の高い水産物（ブランド化）を出荷したり、研究者と協力して養殖や栽培漁業等「つくり育てる漁業」にも力を入れたりしているんだね。また、高齢化がこれ以上進まないようにするために積極的に若い人達に漁師の魅力を伝える活動もしているんだね。
- 持続可能な水産業を実現するために、政府はどのような取組みを行っているのだろうか。資料をもとに調べよう。
- 政府は、持続可能な水産業を実現するために、外国と話し合いをして輸入量を決めたり、日本の消費量が増えるよう消費者に呼びかけたりしているんだね。他にも漁師に金銭面で支援したり、漁村の魅力や漁師の魅力をホームページを使って伝えたりする取組み等も行っているんだね。
- 学習したことをまとめよう。

○消費者・生産者共に望ましい状態とは、どちらにとっても損をしない状態である。水産業においてこのような状態を「持続可能な水産業」という。



○持続可能な水産業を実現するために、日本の生産者（漁師）は、消費者に高価でも購入してもらえるような質の高い水産物（ブランド化）を出荷し、外国産との差異化を図ったり、研究者と協力して養殖や栽培漁業等「つくり育てる漁業」にも力を入れている。さらに、水産資源の保護の観点から、植樹や魚つき保安林を守る活動、漁獲時期や量、大きさ等の規制に基づく漁の実施や漁業就業者を確保する取組として若手漁師による水産業の魅力を伝える活動等も行っている。一方政府は、輸入規制や経済水域内の外国船の取り締まり、生産者（漁師）の雇用・資金援助等、大量輸入によって生産者（漁師）にもたらされる負の影響の軽減を図る取組みを行っている。

【付加価値（ブランド化）、市場介入、持続可能な水産業】

●たくさんの水産物を輸入することによって、「よい影響」と「よくない影響」の両方が様々な立場の人にもたらされます。このような状況を踏まえ、あなたはこれからの日本の水産業について、次のどの意見に賛成しますか。下の3人の意見(Aさん…今より輸入量を増やすべき。Bさん…今より輸入量を減らすべき。Cさん…右記参照。)を読み、自分の考えに近いものを1つ選びなさい。また、なぜそれを選んだのか理由を説明しなさい。

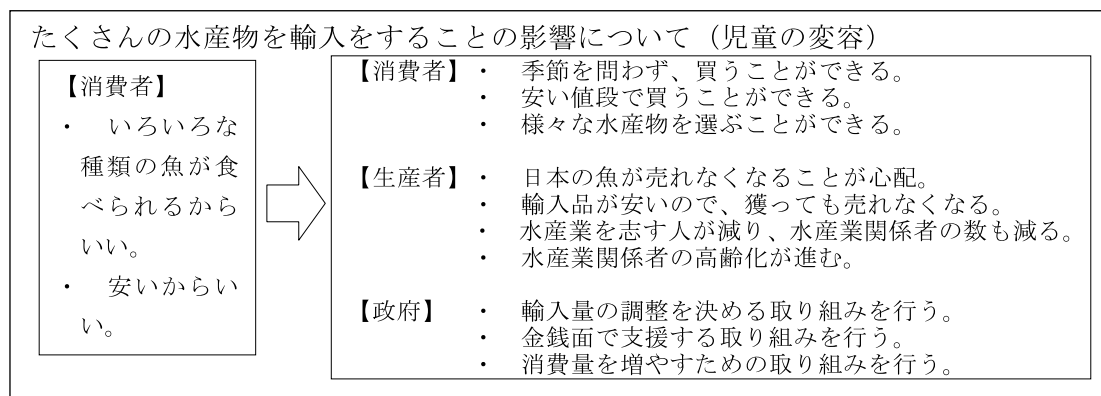
○例) 私はCさんの考えに賛成である。なぜなら、今より輸入量を増やしすぎると、日本の漁師（生産者）が受ける「よくない影響」が大きくなり、逆に輸入量を減らしすぎると、私たち消費者や政府が受ける「よい影響」が小さくなるからである。私たちは、輸入によってもたらされる「よい影響」を受けつつ、「よくない影響」ができるだけ小さくなるように、両方のバランスが保てるような取組みを応援していくことが重要だと思う。

\* [生産者]、[研究者]、[政府]

## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

- 産業と国民生活の様子について、複数の立場から捉えさせる学習を展開したことで、学習前は消費者の立場からの判断しかできなかった児童が、生産者や政府の立場からも捉える様子が見られるなど、様々な立場の人々の取り組みや、社会の仕組みを広い視野から理解することにつながった。



- 産業と国民生活の様子を「需要と供給」「付加価値」「コスト」等の視点から考えさせる学習を展開したことで、下記のように社会的事象を広い視野から関連的に捉える児童が増え、より確かな社会認識へとつなげることができた。

- ・ マグロは部位や漁法によって、値段がちがうことがわかった。
- ・ 水産物をブランド化することで、高く売れるようにしていることがわかった。
- ・ 水産物が全国から築地市場に集まってくるのは、輸送費をかけて築地市場まで運んでも、地元で売るより高い値段で売れる可能性があるからだわかった。
- ・ 味の評判、新鮮さ、漁法等がテレビなどで紹介され、それが宣伝となって、高い値段でも欲しいという人がいることがわかった。

- 習得した知識をもとに未来予測・価値判断を迫ることができる問いやその問いについて自分なりの考えを書く場を設定したことによって、これからの社会の在り方について公正に判断し、自分の考えを表現することができた。

このまま水産物の輸入を続けていくとして、どのような方向で進めていくといいと思いますか

【児童の記述から】

- ・ 輸入にはよい影響もよくない影響もあるので、簡単に増やした方がいい、減らした方がいいとは言えない。よい影響を受けつつ、悪い影響を減らしていく取り組みを進めた方がいい。
- ・ 私はAさんの考えに賛成である。なぜなら、今より輸入量を増やしすぎると、漁師が受ける負の影響が大きくなり、逆に輸入量を減らしすぎると、私たちや政府が受けるよい影響が小さくなるからである。両方のバランスが保てるような取組みを応援していくことが重要だと思う。

### 2 研究の課題

- ◇ 社会的事象の理解を深めていく上で、単元のねらいに迫れるよう、小单元ごとにどのような立場を登場させるか、どのような視点を中核に据えるのかについては、更に吟味していく必要である。
- ◇ 問いに対して立場を明確にした話し合い活動をすることで、多面的に考えられるようになった児童がいた。一方で、多面的に考える経験の不足や毎時間の学習内容の定着が不十分だったことなどにより、自分の考えに固執して社会的事象に対して多面的に考えることが難しい児童の実態もあった。そうした児童に対して、多面的に考えることのよさを感じさせるための指導の工夫が必要である。

## 第6学年分科会研究主題

### 社会的事象をより広い視野から捉え、これからの自分の生活や社会の発展について考えを表現する学習指導の工夫

#### I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領(平成20年告示)では、社会科の学習において「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」を重視している。本分科会が第6学年の児童155名に行った社会科の学習に関するアンケート調査では、「社会科が好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童が全体の約7割を占めた。

一方で、「自分の考えを発表すること」や「友達の考えを聞いて質問したり意見を述べたりすること」に対して、「苦手」「どちらかと言えば苦手」と回答した児童が8割を占めた。また、児童が好きな学習活動としては、「新しい知識を身に付けること」(約6割)や「教科書や資料集、本、パソコンなどを使って調べること」(約7割)が挙げられている。

これらの結果から本分科会では、児童は知識の習得には意欲的な反面、自分の考えを表現することには苦手意識があると捉えた。つまり、児童は社会的事象の意味を考えたり、社会的事象と自分との関わりを考えたりする経験が少ない傾向にあり、これは児童が習得した知識をもとにして自分の考えをもったり表現したりする能力を身に付けるための指導が十分に行われていないことによるものと考えられる。

こうした課題から、本分科会では、社会的事象を確かな知識として習得し、その意味を捉えたり、自分との関わりを考えたりしながら、自分の考えを表現できるようにするための指導を工夫する必要があると考え、上記の分科会研究主題を設定した。

分科会主題の「より広い視野から捉える」とは、様々な立場、先人の業績や過去の事象、地理的要因などの面から社会的事象を捉えることである。これらを通して社会的事象を捉えることが、確かな社会認識につながることを意図している。

また、「これからの自分の生活や社会の発展について考えを表現する」とは、こうした「より広い視野」から捉えた事実を根拠として、これからの自分の生活や社会の発展につなげていくために、自分なりの考えをもち、表現することである。具体的には、今までの自分の生活を振り返り、自分が行わなければいけないと思うことを表現したり、社会に対する提案や発信をしたりすることである。

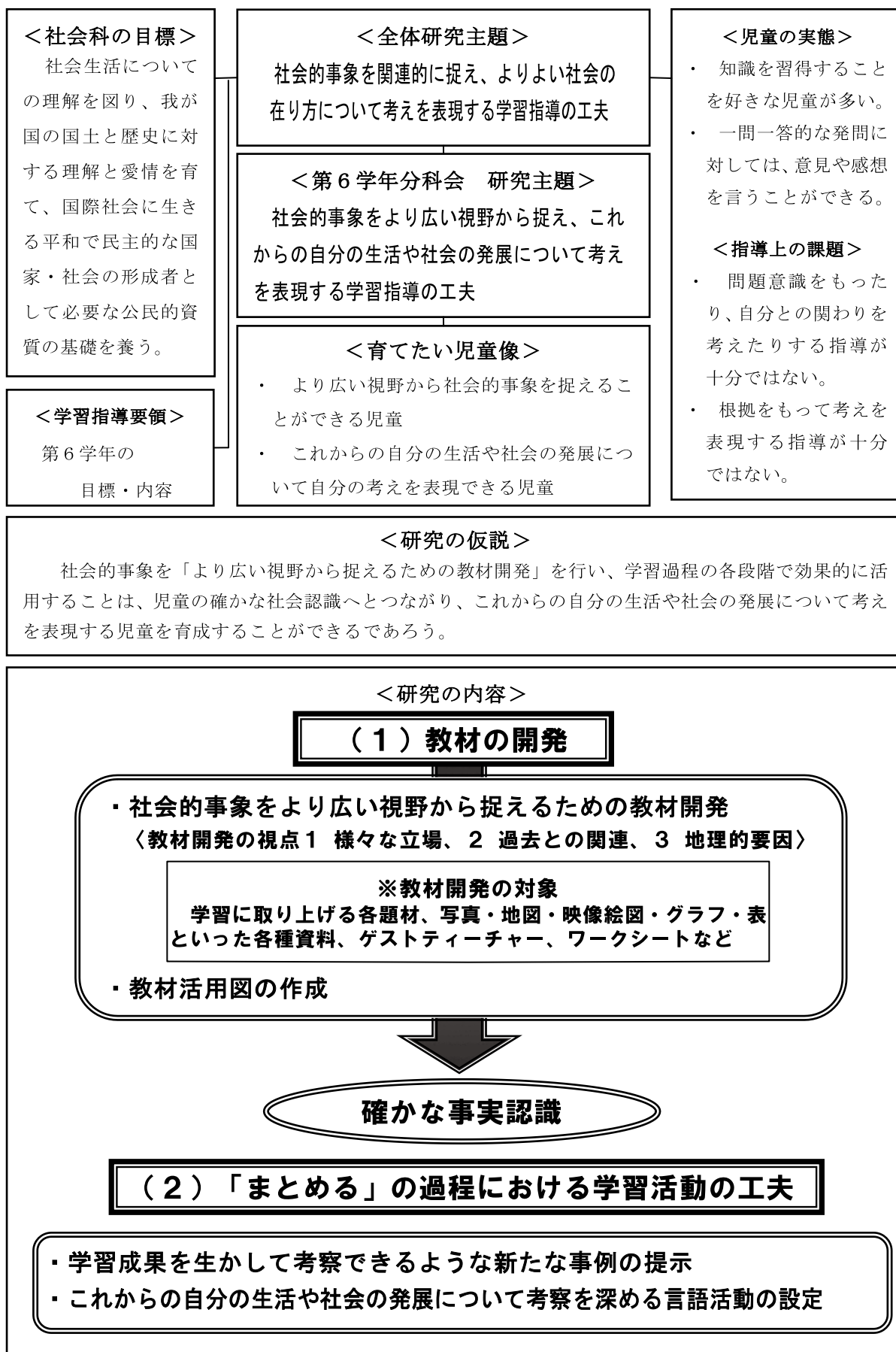
本分科会では、児童に求める社会参画への基盤となる資質や能力の基礎を、「社会的事象の意味を捉えた上で自分なりの考えをもち、表現すること」と考えている。そのために、社会的事象をより広い視野から捉えることができる教材開発を行い、これからの自分の生活や社会の発展について考えを表現するような学習活動の工夫を行うといった視点から研究実践を進めていくこととした。

#### II 研究の仮説

社会的事象を「より広い視野から捉えるための教材開発」を行い、学習過程の各段階で効果的に活用することは、児童の確かな社会認識へとつながり、これからの自分の生活や社会の発展について考えを表現する児童を育成することができるであろう。



### Ⅲ 研究構想図



#### IV 研究の内容

##### 1 教材の開発

###### (1) 社会的事象をより広い視野から捉えるための教材開発

本分科会では、社会的事象をより広い視野から捉えるための教材を開発し、児童に事実を適切に捉えさせることが、児童の確かな社会認識につながると考えた。そのための教材開発の視点は次のとおりである。

#### 教材開発の視点

##### 〈視点1 様々な立場〉

社会的事象を自分やある一方の立場で捉えるのではなく、様々な立場と関連させて捉えることによって、多様な見方や考え方があることに気付かせる。

##### 〈視点2 過去との関連〉

社会的事象を先人の思いや願い、工夫や努力から捉えたり、過去の歴史が現在に与えた影響を考えたりすることで、現在とは違う見方、考え方があることや、現在とのつながりなどについて気付かせる。

##### 〈視点3 地理的要因〉

地図や地球儀等を用いて、社会的事象を地形、位置関係、自然環境などの視点から捉えることで、その分布や広がり方と地理的要因には関係があることに気付かせる。

###### (2) 教材活用図の作成

単元で使用する全ての教材を、「教材活用図」としてまとめ、指導者が学習過程の各段階で開発した教材をどのように活用するのかを具体的に整理できるようにした。

##### ＜教材活用図の具体例 小単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」＞

主な学習内容	教材 学習に取り上げる題材、写真・地図・映像・絵画・グラフ・表などの各資料、ゲストティーチャー、ワークシートなど	より広い視野から捉える		
		立場	過去	地理的
① 学習問題作り	写真「焼き場に立つ少年」ジョー・オダネル氏	○		
	写真「東京大空襲直後の東京」		○	
②③ 中国やアメリカとの戦争	写真「大根をかじる子どもたち」岩手県		○	
	グラフ「日本とアメリカの生産量の比較」	○		
	写真「日本語教育を受けるアジアの子どもたち」	○		
	図「戦争でぎせいになった日本やアジアの人々」	○		
④ 戦時中の人々の生活	戦争の流れを示した年表		○	
	アジア・太平洋沿岸の戦場マップ（白地図）			○
	吹き出し「戦争に行く人や見送る家族の気持ち」		○	
⑤ 戦時中の子どもたちの生活	写真「配給を受ける人々」		○	
	表「配給制になった年月」		○	
	写真「学童疎開、軍事教練、勤労動員を行う子どもたち」		○	
⑥ 空襲、沖縄戦、原爆戦争の終結	写真「自分たちの地域の子どもの学童疎開の様子」		○	
	吹き出し「学童疎開に行く子どもたち、疎開中の食事」		○	
	写真「自分たちの住んでいる地域の空襲の様子」		○	
	写真「沖縄戦の様子」「白旗を掲げる少女」沖縄県		○	
	ゲストティーチャー「原爆の語り部」	○		
	国内の空襲被害マップ（白地図）			○

なお本研究では、学習に取り上げる題材の他、写真、映像、地図、図表、ワークシートといった教具なども、工夫次第で高い学習効果が得られることから開発対象の教材として考えることとした。

## 2 「まとめる」の過程における学習活動の工夫

### (1) 学習成果を生かして考察できるような新たな事例の提示

小単元の「まとめる」の段階では、調べた事実を整理し、児童が社会的事象の意味を捉えることができるようにしていくことが必要である。その上で、既習事項を根拠にこれからの自分の生活や社会の発展について考察できるような新たな事例を提示することで、「社会参画への基盤となる資質や能力の基礎」を育むことができると考えた。

#### 【小単元「長く続いた戦争と人々の暮らし」における実践例】

原爆ドームはどのようにして保存されることになったのだろうか

原爆ドームの存廃論争を巡る先人の思いや努力を調べ、平和な社会がどのようにして築かれてきたのかを知ることを通して、これからも平和な世の中を築いていく上で大切なことは何かを考える。

いのはな慰霊祭はどのようにして続けられてきたのだろうか

戦時中、八王子で起きた「湯の花トンネル列車襲撃事件」の犠牲者を弔うために、今なお慰霊祭を続けている地域の人々の思いや考えを聞くことを通して、平和について自分の考えをまとめる。

### (2) これからの自分の生活や社会の発展について考察を深める言語活動の設定

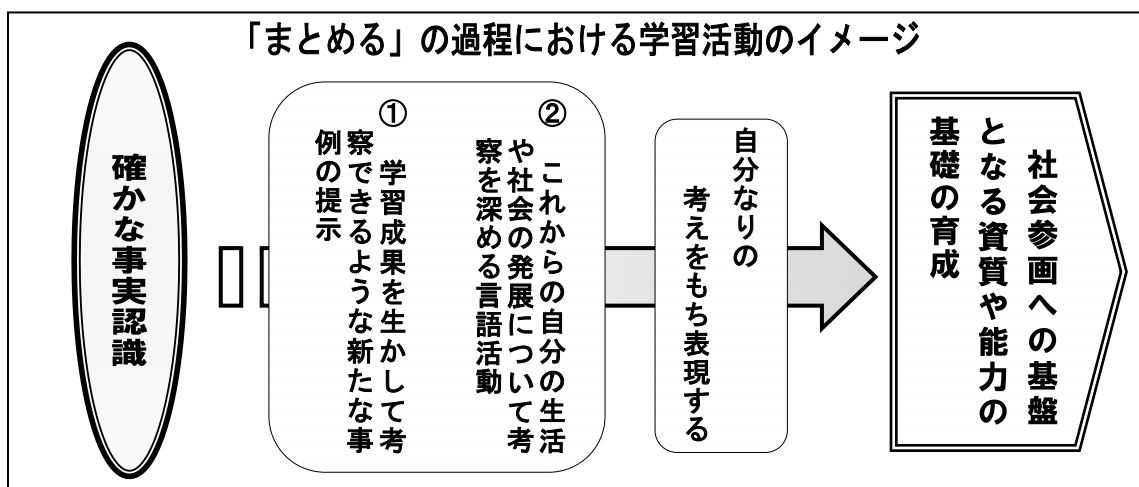
小単元のまとめでは、児童が新たな事例を通して社会的事象の意味を再度見つめ直し、これからの自分の生活や社会の発展に対して、自分の考えを表現する場を設定した。

ただし、実際の活動場面においては、未来の社会の在り方について

#### 【言語活動の事例】



- ・ まとめの文章化
- ・ 図表化による発表
- ・ 意見交流会
- ・ 賛成、反対の討論会 など

て拙速に問うのではなく、児童が自発的に考察できるように、題材選びや発問の工夫にも留意してきた。



V 実践事例

<p>学習過程</p> <p>つかむ</p>	<p>ねらい</p> <p>① 空襲被害の様子や戦争中の児童の写真、説明文などから戦争とその影響に対する興味をもつ。</p>	<p>○主な学習活動</p> <p>○写真を見て我が国の戦争の歴史について関心をもつ。</p> <p>○年表を使い、日本が行った戦争のおおまかな流れを調べる。</p> <p>○写真や年表を基に、日華事変や我が国にかかわる第二次世界大戦について疑問に思ったことや調べたいことを整理し、学習問題を作る。</p>	<p>●研究の内容 ・児童の反応</p> <p>●教材の開発〈視点1 様々な立場〉 「焼き場に立つ少年」※第1時</p> <p>戦時中の少年の立場から考える。</p> <p>〈児童の反応〉 ・兄弟が死んでしまったのに、涙も流さずまっすぐ立っているなんて自分にはできない。 ・唇をかみしめているので、本当はとても悲しかったと思う。</p> <p>↑「トランクの中の日本」小学館より引用。</p> <p>〈考察1〉 戦争について漠然とした想像しかない児童は、この1枚の写真から、同世代の子供が味わった過酷な現実を目の当たりにした。すると、自然に「なぜ戦争が起こったのか知りたい。」「どんな戦争だったのか調べたい。」「国民の生活はどのように変わったのだろうか。」といった疑問や追究したい内容が明らかになり、学習問題の設定につながった。</p>
<p>調べる</p>	<p>②③日本が、中国やアメリカと戦争を行うようになった原因や、戦場がどのように広がっていったのかをつかむ。↓</p> <p>②日華事変 ③第二次世界大戦</p> <p>④戦時中、国民統制下において、人々がどのような生活を送っていたのかが分かる。</p>	<p>○日華事変や我が国にかかわる第二次世界大戦について、年表や地図、説明文などを基に、原因や結果をつかむ。</p> <p>○戦場がアジア・太平洋地域へと拡大していった様子を調べ、分かったことを白地図に書き込む。</p> <p>○戦争は、戦地に送られる兵隊だけではなく、国民全体の生活にも影響が及んだことを知る。</p> <p>○戦時中の配給制を具体的に調べる。</p> <p>○当時の人々がどのような思いで生活を送っていたのかを想像し、吹き出しに書き込む。</p>	<p>●教材の開発〈視点3 地理的要因〉 「アジア・太平洋沿岸の戦場マップ」※第3時</p> <p>戦争の広がりを空間的に認識する。</p> <p>年表や資料をもとに、主な戦場があった年月や戦場になった場所を調べ、白地図に書き込めるようにした。</p> <p>〈児童の反応〉 ・戦場はアジアや太平洋沿岸まで広がった。 ・戦場は、遠くからだんだんと日本に近づいていったのが分かった。 ・戦場になった地域も大きな被害が出た。 ・戦場が広がりすぎたため、物資も足りなくなっていたのではないかと。 ・国民はどんな生活を送っていたのだろうか。</p> <p>〈考察2〉 児童は、地図を活用することによって、戦場がアジアや太平洋沿岸にまで広がっていった様子を視覚的に捉えることができた。その中で、戦場が南方から徐々に北上し、日本に近づいてきたことが分かったと、そのことを根拠に、日本が戦争の終盤に不利な状況に陥っていったことを予想する児童が現れた。</p>

	<p>⑤戦争は、児童たちの生活にも大きな影響を与えたことが分かる。</p> <p>⑥日本各地への空襲や沖縄戦、原爆投下を経て、日本が降伏して全ての戦争が終了したことをつかむ。</p>	<p>○各種資料から戦争中の児童たちの学校での様子を具体的に調べる。</p> <p>○当時の児童たちがどのような思いで生活していたのかを想像し、吹き出しに書き込む。</p> <p>○戦争末期、日本各地の都市が空襲されるようになったことを表や地図を活用して調べる。</p> <p>○沖縄戦や原爆投下について、各種資料を活用したり、ゲストティーチャーに聞き取りを行ったりして調べる。</p> <p>○日本の降伏で戦争が集結したことを知る。</p>	<p>●教材の開発〈視点2 過去との関連〉 「戦時中の学童疎開の様子」※第5時</p> <p>同じ町で生活していた子供たちの様子から考える。</p> <p>区が発行した戦災の記録集をもとに、戦時中の子供たちの様子が分かる写真や文章資料を活用した。</p>  <p>↑「中野の戦災記録写真集」中野区より引用。</p> <p>〈児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ学校の子供たちが、実際に学童疎開や軍事教練をしていたなんて驚いた。</li> <li>・おにぎり1個やお饅頭がご馳走だなんて、本当に苦しい生活だったのが分かった。</li> <li>・今と違い、戦争中は何でも我慢しなければいけなくて大変だと思った。</li> </ul> <p>〈考察3〉</p> <p>同じ町にくらしていた同世代の子供の写真や、体験談などを教材に活用することで、児童は戦争が身近なところにも影響していたことを捉えた。また、過去と現在の比較を通して、当時の子供たちは「国のため」や「戦争に勝つため」に生活のあらゆる場面で協力したり我慢したりしなければならなかった事実を捉えることができ、戦時中の国民生活の様子について理解を深めた。</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑦戦争の様子、人々の生活の様子について分かったことをまとめる。</p> <p>⑧原爆ドームの保存に込められた先人の思いや努力について学ぶことを通して、よりよい社会の在り方について考える。</p>	<p>○調べて分かったことを整理して、学習問題のまとめを行う。</p> <p>○戦争の歴史を学んで、考えたことをノートに書く。</p> <p>○年表で原爆ドームが世界文化遺産に登録されるまで流れを知る。</p> <p>○説明文を読み、保存賛成派と反対派の論争について双方の考え方や思いの違いをつかむ。</p> <p>○原爆ドームの保存が決定された意図を考える。</p> <p>○原爆ドームを保存してきた先人の歩みから学んだことを書く。</p>	<p>●「まとめる」の過程における学習活動の工夫 ※第8時</p> <p>・新たな事例の提示</p> <p>・これからの自分の生活や社会の発展を考察する言語活動の設定</p> <p>新たな事例として、原爆ドーム存廃論争を取り上げる。当時、人々がどのような思いや考えをもつて論争していたのかを資料から読み取り、先人がよりよい社会を築くためにどのような意志・決定の過程を歩んできたのかを探らせた。その中で、原爆ドームが過去のものではなく、現在～未来へと向かって続く重要な意味をもつことに気付くと共に、これからも平和な世の中を築く上で大切なことは何かを考えられるようにした。</p>  <p>↑原爆ドーム（広島市提供）</p> <p>〈児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、最初、保存反対の人の気持ちがよく分かったが、広島市長の話を読んで、明るい未来をつくるためには原爆ドームは残されるべきだと思った。</li> <li>・個人が被爆のことを思い出さないようにすることも大事だが、将来に向かって戦争を繰り返さないことを訴える方がより大事だと思った。</li> <li>・私たちも、未来に向かって戦争の恐ろしさ、平和の尊さ、亡くなった方々の思いというものを伝えていかないといけない。</li> <li>・僕は、これからもっと戦争の歴史を勉強して、人々に伝えていけるようになりたいし、ならないといけないと感じた。</li> </ul>



	<p>〈考察4〉          保存賛成派・保存反対派といった立場に分けたことで、原爆ドームが保存されるまでの人々の葛藤及び保存決定の根拠となった原爆ドームの意味や価値について深く考えることができた。          また、原爆ドームは過去の建造物であるが、平和を訴える象徴としての意味は現在に脈々と受け継がれていることに気付くと共に、先人の歩みや意志を引き継いでいくことの意義を考える児童が現れた。平和な世の中を築く尊さや難しさ、自分でも努力できそうな事柄を具体的に表現する児童が増えたことに、よりよい社会の在り方を考える姿がはっきりと表れていた。</p>	
	第8時の板書→	



## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

- 社会的事象を様々な立場から捉えさせたことによって、漠然とし

かもっていなかった戦争に対する児童の認識が、より過酷な生活を強いられていたという認識に変わり、そこから「どうして戦争が行われたのだろう。」などの問題意識を引き出すことにつながった。

- ・ 兄弟が死んでしまったのに、涙も流さずまっすぐ立っているなんて自分にはできない。
- ・ 唇をかみしめているので、本当はとても悲しかったと思う。
- ・ 同じ学校の子供たちが、実際に学童疎開や軍事教練をしていたなんて驚いた。

- 「原爆ドーム」や「いのはな慰霊祭」などの文化財や行事を扱ったことで、過去の事象と現在のつながりの中にある人々の思いを考えることができた。また、それらを未来に引き継いでいくことの大切さや、そのために自分たちにできることを考えることにもつなげることができた。

#### 〈児童の反応〉

- ・ 原爆のことを思い出さないようにすることも大事だが、将来に向かって戦争を繰り返さないことを訴える方がより大事だと思った。
- ・ 僕は、これからももっと戦争の歴史を勉強して、人々に伝えていけるようになりたいし、ならないといけなと感じた。 など

- 学習問題のまとめでは、「戦争は二度としないほしい。」「今の時代に生まれてよかった。」といった記述であったが、小単元の終末の活動で新たな題材を提示し、言語活動を設定したことによって、「もっと勉強して、戦争の歴史を詳しく知りたい。」「平和な世の中にするために、戦争の歴史を未来に伝えていかなければいけない。」「過去よりも未来のことを考えることが大切だ。」など、これからの自分の生活や、望ましい社会の在り方について考えるといった変化が見られた。

### 2 研究の課題

- ◇ 社会的事象への問題意識を引き出したり、自分に引き付けて考えさせたりするにあたって人物を教材として取り上げた際に、心情面を捉える展開となることが多かった。今後は、具体的な活動や努力、成果といった客観的な情報を取り入れることで、確かな社会認識の形成を図るための指導の工夫が必要である。
- ◇ 「まとめる」の学習活動で提示する他の事例は、児童が必要を感じたり、思考を深めたりできるように吟味しなくてはならない。

# 平成24年度 教育研究員名簿

## 小学校・社会

### 中学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
国分寺市	国分寺市立第一小学校	主任教諭	○志村 雅巳
西東京市	西東京市立保谷第二小学校	主任教諭	桂川 佳津範
大田区	大田区立西六郷小学校	主任教諭	西尾 英里子

### 第5学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
武蔵野市	武蔵野市立千川小学校	主任教諭	◎高丸 一哉
町田市	町田市立七国山小学校	主任教諭	○塩野 和子
板橋区	板橋区立板橋第六小学校	主任教諭	室本 辰也
神津島村	神津島村立神津小学校	教諭	佐藤 克士
目黒区	目黒区立大岡山小学校	教諭	鈴木 信貴

### 第6学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
葛飾区	葛飾区立原田小学校	教諭	○橋本 潮
新宿区	新宿区立落合第二小学校	主任教諭	増田 義久
中野区	中野区立平和の森小学校	主任教諭	北國 元気
八王子市	八王子市立浅川小学校	主任教諭	小林 温子

◎全体世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 秋田 博昭

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

指導主事 吉川 正

平成24年度  
教育研究員研究報告書

小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ